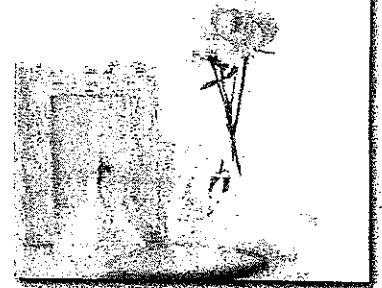


特集Ⅲ

アンチエイジング特集

新世代の抗酸化物質、次々登場  
植物性SOD、市場をけん引



アンチエイジングといえば「抗酸化」と言われるほど、美容業界では活性酸素除去に関する研究が盛んに行われている。紫外線、排気ガス、喫煙など細胞にダメージを与える活性酸素を増やさないためにストレスフリーな生活や食生活など生活習慣を見直すという動きは、生活習慣病を予防しようというメタボリック症候群対策にも通じるものがある。今号では外側、内側からアプローチする内外美容をメインとしたアンチエイジングをレポートする。

GOQ10、ビタミンC、E、  
アスタキサンチン認知普及

アンチエイジング市場は、年齢とともに、人間の体内にある活性酸素を消費する酵素の生産量が低下する。このため、活性酸素を除去するために抗酸化物質を外から内から積極的にとらうという抗酸化対策がエイジングケアとして広く浸透してきた。「サビ細胞の酸化老化」を防ぐためにさまざまな研究が盛んに行われ、抗酸化作用が高い素材としてC、Q10、アスタキサンチン、ビタミンC、E、リコピン、βカロテンをはじめ、カタキン、ピクノジェノール、フラボノイドなども抗酸化対策の代表的な人気成分となっている。

まず、抗酸化物質を摂取するのがアンチエイジングとして抗酸化対策が叫ばれ、注目され始めたのがSOD(スーパーオキシド・デスムターゼ)だが、体内SOD(抗酸化酵素)の働きを活性化させ、増加させるために最も有効な抗酸化物質を取り入れることが重要。これは体内SODには体外から抗酸化物質を摂取するものとは比較にならないほどの効果が認められているためだ。

SODはフランスのニナファーム社を中心に

求められる老化測定  
科学的エビデンス

世界抗酸化学会会長を務めるマーヴィン・イディア博士率いる研究者らにより研究されてきた。その抗酸化作用とアンチエイジングに関する多くの研究データは医薬品や化粧品開発のために応用され、同社は特に果実や植物など100%天然由来の抗酸化物質を抽出する分野で市場をけん引している。

植物由来の抗酸化物質としては、日本抗酸化学会が推奨するスイカ由来の抗酸化物質「アクトイソ」や、メロン由来の「GOQ10」などが美容加齢と老化マーカーとなるタンパク質の発見を目的とした共同研究を開始した。

アンチエイジングサイエンスは東京都老人総合研究所老化ゲノムバイオマーカー研究チームリーダー白澤卓二博士(日本抗加齢医学会理事)が長年の研究成果を事業に展開していくバイオベンチャー企業。

今回の共同研究で老化進行度の測定が可能になれば、アンチエイジング領域における科学的なエビデンス、それに基づく製品やサービスが広く普及し、高齢化が進む日本で今後のエイジングケア産業の拡大が大きく期待されるだろう。

「サビ細胞の酸化老化」を防ぐためにさまざまな研究が盛んに行われ、抗酸化作用が高い素材としてC、Q10、アスタキサンチン、ビタミンC、E、リコピン、βカロテンをはじめ、カタキン、ピクノジェノール、フラボノイドなども抗酸化対策の代表的な人気成分となっている。

まず、抗酸化物質を摂取するのがアンチエイジングとして抗酸化対策が叫ばれ、注目され始めたのがSOD(スーパーオキシド・デスムターゼ)だが、体内SOD(抗酸化酵素)の働きを活性化させ、増加させるために最も有効な抗酸化物質を取り入れることが重要。これは体内SODには体外から抗酸化物質を摂取するものとは比較にならないほどの効果が認められているためだ。

SODはフランスのニナファーム社を中心に